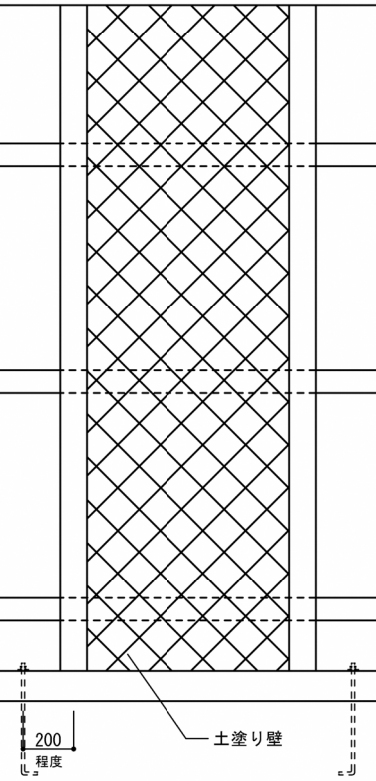
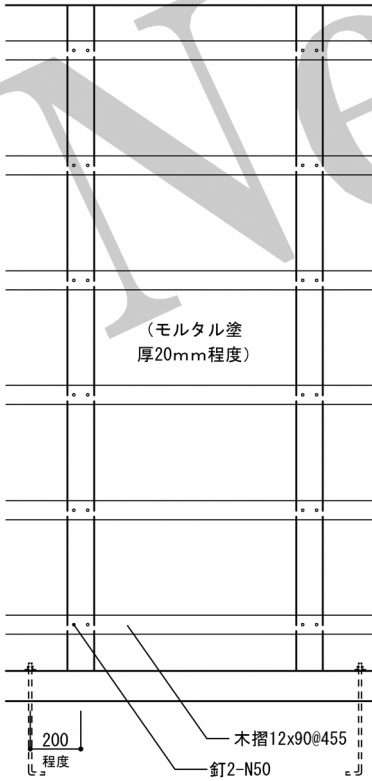
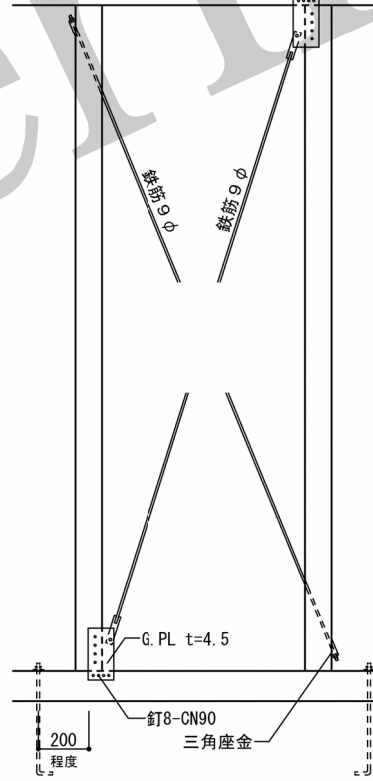
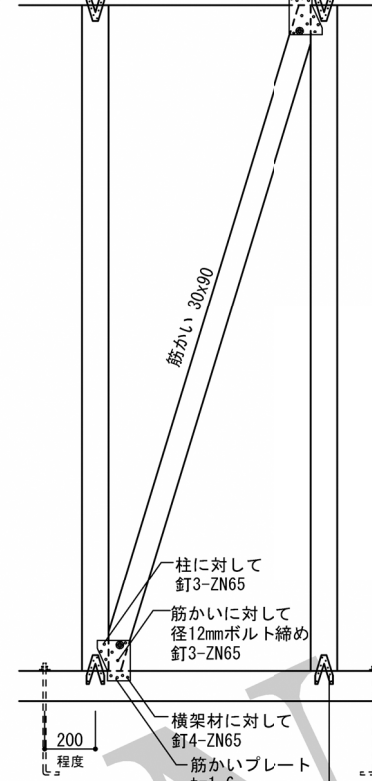
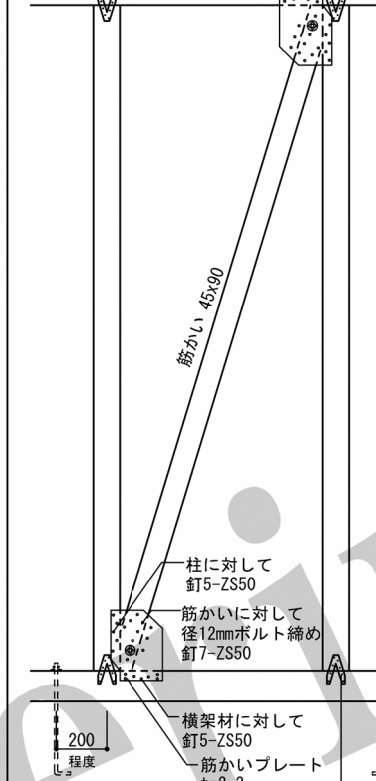
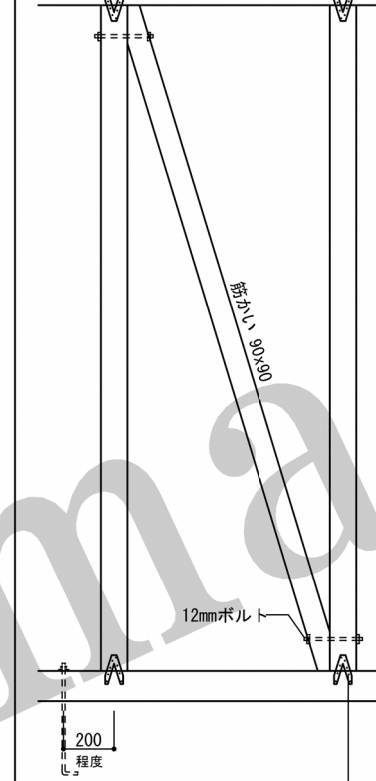
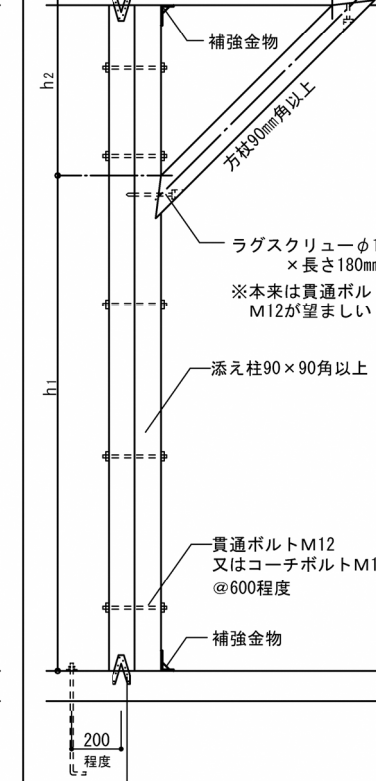
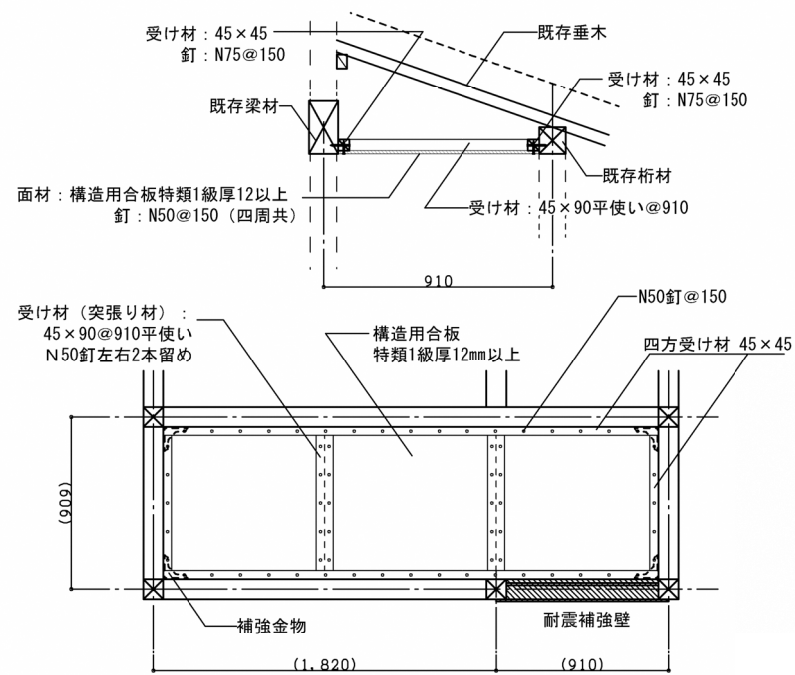
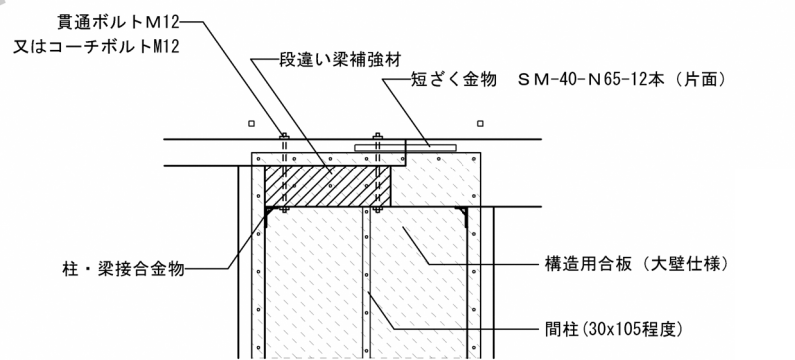


木構造耐震補強工事特記仕様書		No.2		接合補強金物標準図		特記：使用金物類は、日本住宅・木材技術センターZ金物相当品とする。 下図は告示による表記であり、メーカー仕様による該当品の使用も可とする。（Dマーク、Sマーク、Cマーク） 標準図外の該当品はカタログ等を添付すること。					
い		ろ		は		は		は		は	
☐ 短ほぞ差し、かすがい打ち 短期許容耐力 短ほぞ差し：0.0kN かすがい打ち：1.1kN *1		☐ 長ほぞ差し込み栓打ち 短期許容耐力 3.8kN		☐ かど金物（CP・L） 短期許容耐力 3.4kN		☐ かど金物（CP・T） 降伏耐力 5.1kN		☐ 山形プレート（VP） 降伏耐力 5.9kN			
に		ほ		ほ		へ		へ		へ	
☐ （SB・F2・SB・E2） ☐ 羽子板ボルト／スクリーナ釘なし 降伏耐力 7.5kN		☐ 短冊金物／スクリーナ釘なし（S） 降伏耐力 7.5kN		☐ （SB・F・SB・E） ☐ 羽子板ボルト／スクリーナ釘あり 降伏耐力 8.5kN		☐ 短冊金物／スクリーナ釘あり（S） 降伏耐力 8.5kN		☐ （HD-B10，S-HD10） ☐ 引き寄せ金物 短期許容耐力 10.0kN			
と		ち		り		り		り		り	
☐ 引き寄せ金物（HD-B15，S-HD15） 短期許容耐力 15.0kN		☐ （HD-B20，S-HD20） ☐ 引き寄せ金物 短期許容耐力 20.0kN		☐ （HD-B25，S-HD25） ☐ 引き寄せ金物 短期許容耐力 25.0kN		☐ （HD-B15，S-HD15）x2 ☐ 引き寄せ金物 短期許容耐力 30.0kN					
※本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した事項を使用する。 *1 日本建築防災協会「2012年版 木造住宅の耐震診断と補強方法」 解表3.7接合部の仕様による											

木構造耐震補強工事特記仕様書 No 3				耐力壁標準図																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
□壁によるもの						□筋かいによるもの												□方丈によるもの																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
工 法		□土塗り壁		工 法		□木摺下地モルタル塗 (厚 2 0 mm程度)		工 法		□鉄筋9.0φ以上 たすき 接合金物あり		工 法		□木材 3 0 mm x 9 0 mm 接合金物あり		工 法		□木材 4 5 mm x 9 0 mm 接合金物あり		工 法		□木材 9 0 mm x 9 0 mm 接合金物あり		工 法		□木材 9 0 mm 角方丈 接合金物あり																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
塗厚		基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad/m)	基準耐力 (kN/m)		基準剛性 (kN/rad/m)				基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad/m)			基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad/m)			基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad/m)			壁倍率		基準耐力 (k N / m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
7 0 mm以上 9 0 mm未満		3 . 5	6 8 0	2 . 2		6 1 0		片		—	—	片		2 . 4	4 8 0	片		3 . 2	6 5 0	片		4 . 8	8 3 0	(1 . 3 / L) / 1 . 9 6		接合金物 あり	1 . 3 / L																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
9 0 mm以上		3 . 9	7 5 0	木摺り@ 4 5 5 mm ラス : 1 0 1 9 J @ 1 0 0 mm		交		3 . 2	4 2 0	交		4 . 8	9 6 0	交		6 . 4	1 3 0 0	交		9 . 6	1 6 6 0	※2h2 < h1 かつ 900mm程度の2等辺3角形																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
貫 3 本 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
※ 壁の上部、及び上下に、隙間がある場合は 修正耐力値を用いる。(壁高さ比: 0.7以上の場合) 修正耐力=元の耐力×壁高さ比×0.9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
壁高さ比=面材が張られている部分の高さ/横架材内法間距離																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

木構造耐震補強工事特記仕様書 N o . 4		耐力壁標準図											
□面材によるもの													
□大壁タイプ （直張り）						□真壁タイプ							
材 料		設計板厚	釘打ちの方法		基準耐力（kN/m）	基準剛性（kN/rad/m）	材 料		設計板厚	釘打ちの方法		基準耐力（kN/m）	基準剛性（kN/rad/m）
			種類	間隔（c m）						種類	間隔（c m）		
□構造用合板 t = 9 . 0（特類2級）以上			N 5 0	1 5以下	5 . 2	8 6 0	□構造用合板 t = 9 . 0（特類2級）以上			N 5 0	1 5以下	5 . 0	9 1 0
□けい酸カルシウム板 t = 8 . 0以上			G N F 4 0	1 5以下	3 . 1	7 8 0							
□フレキシブル板 t = 6 . 0以上			G N F 4 0	1 5以下	3 . 8	9 3 0							
□石膏ボード（GB-R） t = 1 2 . 0以上 （屋内壁）			G N F 4 0	1 5以下	2 . 6	4 5 0							
□石膏ボード（GB-R） t = 1 2 . 0以上 （屋内壁）			ビスφ3 . 8以上 長さ2 8 ~ 4 0 mm	1 5以下	2 . 2	5 1 0							
□上記以外に用いた耐力壁						□上記以外に用いた耐力壁							
□							□						
□							□						
□							□						
注意：面材にコンセント、スイッチ等の開口を開ける場合には、 100mm以上のヘリ空き寸法を確保すること。						注意：面材にコンセント、スイッチ等の開口を開ける場合には、 100mm以上のヘリ空き寸法を確保すること。							
												受材（添柱）の場合	
1. 本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した事項を使用する。 2. 各部に使用する補強用金物は種類も多いため、現場にて適材適所を考え協議の上決定する。 3. 新規に設ける補強柱は「ほぞ納まり」とすることが難しいため、建込に当たり横架材と隙間が開かないよう注意し、柱梁接合金物の他に滑り止めとしての金物を別途取付ける。 4. 地面から1m以内の部分に用いる木材は、必要に応じて防腐措置及びしろありその他虫による被害を防ぐための措置を講ずる。						工 事 名		邸 耐 震 補 強 工 事					
						図 面 名		木構造耐震補強工事特記仕様書 N o . 4 （ 4 / 5 ）		図 番			
						設 計 年 月 日			縮 尺		枚 数		

木構造耐震補強工事特記仕様書 N o 5		耐力壁標準図															
□面材によるもの						□面材+筋かいによるもの											
□準耐力壁タイプ（大壁）						□準耐力壁タイプ（真壁の受材）						面材+筋かいによるものは、合算による数値とする。 基準耐力・基準剛性は各補強タイプの数値の和					
材 料		設計板厚	釘打ちの方法 種類 間隔（c m）		基準耐力 （kN/m）	基準剛性 （kN/rad/m）	材 料		設計板厚	釘打ちの方法 種類 間隔（c m）							
□構造用合板 t＝9 . 0（特類2級）以上			N 5 0 15以下		3 . 1	4 7 0	□構造用合板 t＝9 . 0（特類2級）以上			N 5 0 15以下		4 . 0	7 3 0				
□石膏ボード（GB-R）t＝1 2 . 0以上 （屋内壁）			くぎGNF40 または ビスφ3 . 8以上 長さ2 8～4 0mm		15以下	2 . 0 3 4 0	□石膏ボード（GB-R）t＝1 2 . 0以上 （屋内壁）			GNF 4 0 2 0以下		1 . 3	2 9 0				
□上記以外に用いた耐力壁						□上記以外に用いた耐力壁						□水平構面の補強 ※下屋部分を壁補強した場合などに適用する  1 . 四方横架材（梁）のコーナーを補強金物で固定し、四方受け材を釘固定（N 7 5 @ 1 5 0）、水平構面材（構造用合板）を四方受け材に釘打ち（N 5 0 @ 1 5 0）し、一体性を向上させ水平剛性を高める。 2 . 水平構面補強材の構造用合板は <u>特類1級 t＝1 2 mm以上</u>とする。 ※水平剛性を高めるためには<剛床>を構築する考えから使用する構造用合板は t＝2 4 mm程度とすることが望ましい					
□段違い梁補強 ※壁補強面内に横架材（梁）の仕口があり、成の断面寸法が大きく相違する場合などに適用する						 1 . 短冊金物等で横架材相互を結合する。 2 . 段違い部分に補強材を設け、横架材（梁）の高さを調整し、貫通ボルト等で既存横架材に固定一体化する。 3 . 構造用合板は既存横架材まで伸ばし、新規に設けた補強材とも釘打ちする。											
1 . 本特記仕様書は、チェック印又は○印を付した事項を使用する。 2 . 各部に使用する補強用金物は種類も多いため、現場にて適材適所を考え協議の上決定する。 3 . 新規に設ける補強柱は「ほぞ納まり」とすることが難しいため、建込に当たり横架材と隙間が開かないよう注意し、柱梁接合金物の他に滑り止めとしての金物を別途取付ける。 4 . 地面から1 m以内の部分に用いる木材は、必要に応じて防腐措置及びしろありその他虫による被害を防ぐための措置を講ずる。						工 事 名		邸 耐 震 補 強 工 事									
						図 面 名		木構造耐震補強工事特記仕様書 N o . 5 （ 5 / 5 ） 図 番									
設 計 年 月 日		縮 尺				枚 数											